

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2024. 1. 26
No.48 文責 伊藤

まなびあルーム大盛況

1月25日の1時間目、4年生は算数の学習でした。金曜日に予定されている「面積」のテストに向けてテスト勉強する時間を取りました。場所は、「教室」「2組教室」「図書室」「まなびあルーム」を提示しました。学習の確認をした後子ども達を放すと、教室には5、6人しかいなくなりました。意図せず、教室に個別学習可能な空間ができてしまいました。

子ども達を追って校内を回ってみると、4年教室から近くいつも子ども達数人が学習場所として使っている「図書室」は、4年生は1人もおらず、6年生であふれていました。もしかすると、近くの「まなびあルーム」を4年生が占拠し、仕方なしに2階まで下りてきてくれたのかもしれませんが。ごめんなさい。

続いて「まなびあルーム」に行くと、案の定4年生がたくさんいて学習していました。「自分で学習場所を選択し、安心して学べる」という環境が少しずつ整ってきていると感じました。しかしそれと同時に、

「果たして、『まなびあルーム』に行く必要があるのか？」

という疑問も生まれてきたのです。それは、まなびあルームで学習しているのが「教科書やドリル、eライブラリ」だし、関わっているのが4年生同士で、異学年で交流して学習しているわけではなかったからです。これなら4年教室でもできるし、むしろ机が小さい分その方が密に関われると思います。

ただし、その辺は子ども達の判断に任せたいと思います。きっと、新しいものには飛びつきたいのだろうと思うからです。考えてみると、私たち大人も同じなのではないでしょうか。イオンモール天童ができた時、みなさんもきっと行ったはずです。無印良品が東根に出来たと知り、行った方も多いのではないのでしょうか。でも、次第に「普段使いには向かないな。」「イベント事の際は使えるけど、食料品や日用品は近くのスーパーやドラッグストアで買おう。」と、目的に合わせて取捨選択するようになっていきますよね。まなびあルームの使用もこれと同じで、様子を見て使っていく中で、子ども達が使いつらさを感じたりタイパを考えたりした時に、いろんな要素を踏まえて判断するようになるはずです。（そうなってもらいたい）

初めから上手くはいかないと思いますが、少し広い心で見守っていきたいと私は考えています。

（裏面に利用風景を掲載）



6年生の皆さん

ごめんなさい。

どこに行っても自分
たちで学べる姿、下
学年にとって最高の
お手本です。

「まなびあルーム」
を利用する4年生。
自分たちなりに考え
て学習しているよう
です。



2年生の子たちも、
自分で目標を立てて
ブロック工作がんば
っていました。